

議事録

R7.10.16 記 測

令和7年度第4回一般社団法人神奈川県剣道連盟 理事会

日時：令和7年10月9日（木） 18時00分 ～ 20時10分

場所：かながわ県民センター 2階 ホール

出席 本部理事：21名 支部長：34名 支部理事：34名 監事：2名

（欠席 本部：3名 支部長：4名 支部理事：4名）

過半数以上の出席により定足数を満たし成立した

（以下敬称略）

資料

レジュメ

資料1 剣道研究会について

資料2 中高交流会について

資料3 新年会の開催について

資料4 全剣連への要望書提出について

資料5 神奈川武道会発足記念「神奈川武道祭」について

資料6 J:COMの取材について

別紙 季節性インフルエンザと COVID-19対策について

議長

野見山 延 （議事進行：伊藤 龍紀）

議事録署名人

野見山 延 

滝澤 健治 

吉野 和世 

議事録作成者 測 愛美

1. 一開 会一 18:00

2. 会 長 挨 拶

3. 剣道八段合格者紹介（免状・お祝い贈呈）町本 省 先生（相模原市）

4. 議 題

【情報提供】

（1）季節性インフルエンザと COVID-19対策について（森）

別紙資料記載通り

* 65 歳以上・基礎疾患のある 60～64 歳以上の方は、特に留意。

質疑

・インフルエンザとコロナ（COVID-19）は一緒にかかることはあるのか。

(森)両方一遍に感染する可能性はある。

【重点協議事項】

（１）剣道研究会について（飛知和）資料１参照

現在、剣道人口の減少や部活動の地域移行など、大きな変化の中にあり、その中で、「一人でも多く剣道を始めてもらい、続けてもらう」ことを目指す必要がある。

スポーツ庁の方針により、部活動は令和８年から原則休日は地域展開に。令和１３年までは改革実行期間とされている。少子化の影響で全体的に運動人口が減少。剣道も例外ではなく、今後の工夫が重要。

（剣道研究会での報告予定）

たまごヒヨコ杯の現状と今後の方向性

部活動縮小の中で、この大会の今後のあり方について発表予定。

川崎地区の中高交流会の事例紹介

毎年開催されている行事で、高校生が中学生に進路情報を伝える機会。

令和８年２月１日に県の剣道行事として実施予定。

アンケート結果の分析と共有

各支部の現状と課題を明らかにし、情報交換の場とする。

他県の地域展開事例の紹介なども通じて、今後の参考材料を提供。

（２）中高交流会について（小山）資料２参照

今回の中高交流会は、「県主催の新たなモデル事業」として川崎支部が協力・実施。

全支部での展開を見据えつつ、まずは川崎支部が先行して開催をする。

川崎市内の高校・中学・地域団体宛に案内済みであり中学・高校の先生方と連携し、支部が中心となって立案・実行へ動いている。

イベント名は仮称「中学生剣道エンジョイカップ」。検討中の部分も多く、今後内容を詰めていく予定。

この取り組みをきっかけに、中学生・高校生・小学生へも剣道の魅力を広げ、「継続のきっかけ」となるよう、川崎支部としても今後の県事業への発展を視野に入れ、全面的に協力していく姿勢。

* 重点協議事項の総括的な説明（野見山）

地域移行の現状

中学校の部活動は単なる運動ではなく、スマホ依存の防止や人間関係構築など、社会性を育む重要な場であり教員の中には部活動を積極的に支えている人も多く、全員が消極的ではない。

国の方針により、学校部活動は地域へ段階的に移行中。ただし「廃止」ではなく「地域展開」が目的。

それでも、現行のような学校主導の部活動は維持が難しいのが現実。

地域展開に向けた具体例 資料１参照

明石市の取り組み例

集合型：県剣道連盟主催の合同稽古（県単位）

派遣型：地域指導者を学校に派遣（支部や団体単位）

実施回数や活動場所・指導体制は限られており、部活動と全く同じにはならない。

ただし、「派遣型」は特に部活動に近い形となりうる。

課題と対応

- ・活動場所の確保→公共・民間施設はすでに予約が埋まりがち。
学校施設の利用には校長の理解と協力が不可欠。
- ・活動費・報酬・保険など地域スポーツは受益者負担が原則で指導者報酬は大きな負担であり、保険料も学校部活より高いため行政の補助金が不可欠である。
- ・地域移行後も、兼業許可を得た教員が活動に参加できれば、部活と地域活動を橋渡しできる重要な存在になると思われる。
- ・現在も外部指導者として多くの経験者が学校部活動に関わっているが、今後は、道場・剣友会・支部などが連携して中学校を支援する体制づくりが求められる。
子ども達が中学・高校へと剣道を継続できるよう、「たまごヒヨコ杯」「中高連携交流会」などの機会が重要である。
- ・神奈川県剣道連盟として全支部一括の対応は難しい（市町村によって状況が異なるため）ため
支部ごとに教える中学校、連携できる道場を検討してほしい。

*海老名市で行った中学校顧問の先生方との意見交換会について（伊藤）

中学校剣道部顧問7名のうち4名の先生方と海老名市剣道連盟役員との対面による意見交換会を行なった。

海老名市には、市内6校中4校に剣道部があり、合計106名の部員のうち89名が初心者であること、またその多くが顧問の先生方による積極的な声かけと熱意によって入部・継続していることが共有され、加えて、顧問が教務など他の校務を抱える中でも剣道への情熱をもって指導にあたっている実情が明らかとなり、地域移行後にこうした人的支援をいかに確保し、剣道人口を維持・発展させていくかが大きな課題であり、今後は各地域支部でも現場教員との継続的な対話が不可欠であることが再確認された。

質疑

①-1 中体連は、指導者区分（外部指導員・ボランティア指導員等）の違いによる

大会参加資格や現場での扱いのすみわけについてどのように考えているのか？

（中島/剣道人口減少対策委員会）中学校の剣道部などにおいて関わる「地域指導者（外部指導者）」は、原則として教員が顧問として在籍していることを前提に、その教員が技術指導を担えない場合などに補助的な立場で技術指導に協力し、部活動の運営責任や大会引率・監督などの正式な権限は持たず、あくまで顧問教員の補佐として指導にあたるボランティア的な存在であるのに対し、「部活動指導員」は、行政や教育委員会からの任用と予算措置に基づいて配置され、学校教員とほぼ同等の権限を持って顧問不在でも部活動を単独で運営・引率・監督することができる正式な役職であり、両者の名称や立場、報酬、活動内容、

責任範囲は中体連ではなく、各自治体の教育行政の判断に委ねられており、制度の運用方法や待遇も地域によって大きく異なるのが現状である。

- ①-2 同じ学校の生徒が「学校の部活動」と「地域スポーツ団体」から別々に同一大会に出場する可能性があるが、そのようなケースに対し、中体連の対応方針はどうなっているのか？

(中島) 現在のシステムでは、剣道部がある学校に所属している生徒でも、団体戦のメンバーに選ばれなかった場合などは、地域の道場から個人戦に出場することが可能である。ただし、二重登録は禁止されているため、同じ大会内で学校と道場の両方から重複して出場することはできない。

- ①-3 中学校教員の負担軽減のために、地域スポーツ団体の関係者が中体連の運営や大会実務に関与することは可能か？

(中島) 今後地域スポーツ団体が中体連により関わりやすくなる仕組みが整備されると考えている。

現在は、行政から任命された厳選された地域スポーツ団体しか大会に参加できない制度であるが、今後はそのハードルが緩和され、より多くの道場や地域クラブが参加しやすくなる方向で調整が進められている。

柔道のように一部の種目ではすでに道場の大会を中体連の先生方が運営している例もあり、今後は地域のスポーツ団体と学校の先生方が協力して大会運営や指導にあたる体制づくりが重要になると考える。特に一部の府県では学校だけで運営が困難なケースも出てきているため、地域との連携強化が不可欠である。

神奈川県では今のところ運営に問題はないが、今後の課題として、地域の指導者と学校側の協力体制の構築が求められており、その際には関係者の皆様のご協力をお願いしたいと思う。

- ② 役所や関係機関との交渉が必要なことは理解しているが、私が一番懸念しているのは、子どもたちの第一優先は学業であり、私は部活指導員を務めているが、指導時間の調整は非常に難しい。現代は70歳まで働く時代であり、若い世代や働く方が部活指導に時間を割くのは難しい状況である。

部活動の時間と子どもたちの学業や塾の時間が重なりやすく、特に平日の活動日や夏休みの午前中などは調整が難しいため、若い指導者が部活指導に関わりにくい状況を考慮する必要があると思う。

(野見山) 中学生の授業は午後3時に終わり、その後30分ほど経って部活が始まり、1時間半から2時間程度で終了する。一方、地域の道場での稽古は仕事帰りの6時～7時過ぎで時間帯がズレており、この調整が課題である。解決策としては、複数の道場が協力し、定年退職者や仕事終わりの人が指導を分担するなど新しい仕組み作りが必要であり、今後、中学校の部活動は学校単独ではなく地域と連携して運営することが前提となり、学校施設の活用や行政との協力も欠かせない。教員の負担軽減と同時に、地域の役割が大きくなり、資金や運営体制を含めた仕組みづくりが求められている。

部活動指導者の区分を整理し、責任を持って運営できる体制を作ることで、剣道部などの部活動を持続可能にしていく未来型の構想が必要である。

(伊藤) 海老名市での意見交換会でも部活動の時間は毎日変わることが多く、短縮授業や学校の都合で頻繁に変更されるため、1週間を通して一定しないと聞いた。

そのため、学校の時間に合わせて部活動を固定的に運営するのは難しく、会長が指摘したように発想の転換が必要だと感じた。

- ③ 地域クラブに所属する生徒は、校長宛に「他のクラブには所属しません」という誓約書を提出する必要があるが、この制約によって、学校の部活動に所属している生徒であれば問題なく参加できるような活動であっても、地域クラブの生徒には制限がかかるという不公平感につながっている。また、この「他のクラブに所属しない」という誓約が、文化部などの兼ね合いにも及ぶのが曖昧で、指導者としても判断が難しい場面がある。こうした制約の運用について、地域クラブと学校の部活動との間で活動機会に差が生じないようにしないか。

(中島) 中体連の夏季大会には「1人1種目まで」という参加制限があり、たとえば足が速くてサッカーも上手い選手が複数の競技に出たい場合でも、他種目との掛け持ちは認められていない。こうした制約が今後緩和されるかどうかは、現在の中体連の枠を超えた議論が必要であり、現時点では大きな変更は見込めないと考えられる。

また、この問題を考える上では、「部活動としての指導や練習機会の確保」と、「大会への出場可否」の議論を混同しないことが重要である。

【協議事項】

- (1) 指定審判員の追加について (野見山)

教士八段 月岡 陽輔 先生

教士八段 町本 省 先生 追加

執行部提案議題のため支部理事決議 全員賛成 承認

- (2) 広報部会委員の追加について (野見山)

港北区剣道連盟 遠藤 奈穂美 氏 追加

支部理事決議 全員賛成 承認

- (3) 新年会の開催について (伊藤)

資料3記載通り

支部理事決議 全員賛成 承認

【報告・確認事項】

- (1) 神奈川県スポーツ優秀選手表彰候補者について (中島/事務局)

全国中学校剣道大会 女子団体優勝 潮田中学校を申請。

このあとの全日本選手権での結果により候補者を増やす可能性あり。

- (2) 慶弔関係について (野見山)

先日、保土ヶ谷区の理事長が亡くなられたときに規約に該当する部分はなかった、該当する部分がない場合は会長決済でこれを処理するという項があり、それに準じて処理をした。

10/11に行われる篠塚先生の葬儀では、既定の範囲内で花輪と弔電を贈る。

- (3) 全剣連への要望書提出について (野見山)

資料4 記載通り

(4) 暴力等相談窓口の設置について (伊藤)

ハラスメント防止の観点から設置をする。

取り扱い：会長・専務理事・事務局長

担 当：倫理委員会

受付媒体：文書・FAX・メール（後日専用アドレスを作成）

内容については、単なる誹謗中傷だけの内容は受け付けず、事実と認定できるような証拠書類、画像や音声等のデータが備わったものについて受け付けをする。

特に匿名投書は受け付けをしない。

(5) 神奈川武道会発足記念「神奈川武道祭」について (伊藤)

資料5 記載通り

潮田中学校剣道部の生徒が演武・体験会等に協力。

(6) J:COMの取材について (伊藤)

剣道人口の減少問題に取り組む一環として剣道をPRのためJ:COMに取材に入っていただく。

大会：第50回の神奈川県母子剣道大会

放送日時：11月3日12時半から

J:COMのアプリ「ど・ろーかる」でも視聴可能。

(7) 神奈川新聞電子版について (中島)

利用開始した。

【大会・講習会等予定】レジュメ記載通り (中島)

(1) 第50回 神奈川県母子剣道大会・神奈川県東西対抗剣道大会

(2) 第37回全国健康福祉祭ぎふ大会 (ねんりんピック岐阜 2025)

訂正 誤：横浜市チーム 次鋒 小島 一公(南区)

正： ” (瀬谷区)

誤：相模原市チーム 副将 橋本 潔和 (中央区)

正： ” 長谷 和志 (緑区)

(3) 剣道研究会

(4) かながわシニアスポーツフェスタ 2025 剣道大会

(5) 第73回全国青年大会

(6) 剣道 六・七・八段審査会 (愛知県・東京都)

(7) 剣道 (審判法) 講習会

(8) 剣道四・五段審査会

(9) 第72回神奈川県剣道大会

(10) スポーツ庁委託事業 授業協力者養成講習会

【大会結果】

- (1) 第79回国スポ関東ブロック大会剣道競技
- (2) 第55回全国中学校剣道大会
- (3) 第69回神奈川県青少年剣道選手権大会

訂正 誤：一般女子（貞）の部 敢闘賞 伊藤 和美（茅ヶ崎市）

正：〃 (瀬谷区)

- (4) 寛仁親王杯 第24回剣道八段選抜大会
- (5) 第71回全日本東西対抗剣道大会
- (6) 第73回全日本剣道選手権大会
- (7) パナソニック杯第20回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会
- (8) 第79回国民スポーツ大会 剣道競技

【審査会結果】

- ① 剣道審査会合格者

令和7年8月30日（土） 本山製作所青葉アリーナ（青葉体育館）

【剣道七段】 16名

令和7年8月31日（日） 本山製作所青葉アリーナ（青葉体育館）

【剣道六段】 1 1 名

5. 閉 会

閉会挨拶（佐藤）

次回の理事会は 12月18日(木) 18時～ 於かながわ県民センター

以上